

小学校社会科第5学年「産業学習」—企業の目的と活動—

比婆郡東城町立内堀小学校 真加部 三智也

はじめに

変化が激しい社会の中で、産業の形態や産業に従事する人々の活動は多様化してきている。その多様化の原因となっているものは、企業や消費者の動向である。産業を生産の面からだけみることができなくなっているのである。したがって、産業学習においても、時代の変化に対応できる社会的事象の見方・考え方を育成することが望まれている。

これまでの産業学習では、例えば、製鉄や自動車工業などを取り上げ、生産の工夫や努力について、見学したり調べたりしたことをまとめる学習が行われてきた。しかし、その内容は、子どもたちの生活や経験からかけはなれ、一面的で個別的な知識の注入となっていた。つまり、学習した知識を他の事例に転移して考えられる知識へと高めることができている授業である場合が多かった。また、働く人々の工夫や努力を情緒的にとらえさせ、客観的な社会的事象の見方・考え方を育てることができていない授業が、多く見受けられた。

そこで、質の高い概念的知識の習得を目指す森分孝治(1978)の論に基づき、社会的事象の見方・考え方を育成する授業の構成を行う。すなわち、授業では、構造化された問いに対して仮説を立て、検証を繰り返し行う過程で、学習の目的に即した資料を活用し、より科学的な説明ができるようにする必要がある。また、理論を発展させるように、討論を仕組むことによって授業を探究活動とすることが必要である。

本稿では、産業学習のまとめの単元として、産業を生産・流通・消費などの多面からとらえることができ、児童の生活にも密接に関係している「100円ショップ」を題材に取り上げ、「企業の目的と活動」についての問いと知識を構造化した授業を構成した。そして、転移可能な概念的知識を習得させるために、問いを追究する過程で、統計などの基礎的資料を効果的に活用した。また、習得した概念的知識に基づいて社会的事象の役割や影響について考えさせ、社会的事象の見方・考え方を育成する授業構成を行なった。

学習指導案

(1) 対象 第5学年

(2) 単元 企業の目的と活動

「100円ショップのひみつをさぐろう」

(3) 単元の目的

企業の目的と活動に対する「問い」を追究していく過程で、基礎的資料を効果的に活用することによって、企業は利益を上げることが目的に活動を行っていることを理解し、その活動が私たちの生活に様々な影響を与えていることを考え、社会的事象の見方・考え方を育成すること。

(4) 単元の指導計画(全8時間)

過程	時	主な問い	学習内容
導入・課題設定	1	企業は何を目的にして、活動をしているのだろう。 なぜ、100円ショップでは、原価120円の商品を売っているのだろう。販売をする上でのねらいは何だろう。	商品の比較 価格の仕組み 課題づくり
	1	なぜ、100円ショップは売上げや店舗数が伸びているのだろう。	集客力
課題追究	2	なぜ、100円という低価格で販売できるのだろう。生産の面から考えよう。	生産費 機械化 大量生産
	3	なぜ、100円という低価格で販売できるのだろう。輸送と販売の面から考えよう。	輸送の仕組み 宣伝効果 販売の効率化
まとめ	1	企業は何を目的にして、活動をしているのだろう。 企業の活動は、私たちの生活にどのような影響を与えているだろう。	事例の説明 企業の目的 国民生活とのかかわり

(5) 単元の到達目標

商品の価格は、生産や販売にかかる原価と利益によって設定されていることが理解できる。

企業は、様々な努力によって原価にかかる経費を抑え、集客力を高める工夫をしていることが理解できる。

企業の目的は、利益を多く上げることであることを理解し、企業の活動が私たちの生活に様々な影響を与えていることを考えることができる。

指導細案【第1時間】

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料 (プロブレム)	児童の反応(獲得させたい知識)と評価()
導入	- 商品の価格を当てよう() ① A 4 紙ファイル 35 円(100 円ショップ) ② A 4 紙ファイル 65 円(文具店) - 同じ商品なのに価格が違うのはなぜだろう。	T: 発問する T: 資料提示 P: 答える T: 発問する P: 予想する	異なる価格の違う同じ商品	- 同じような商品でも、店によっては価格が違っている。 - 原料の値段が違うのではないか。 - もうけが少ないのではないか、など。
展開	商品の価格のしくみはどうなっているのだろう。【0】 - 商品にはどんな経費がかかるのだろう。【0】-1 - 生産をするときにはどんな経費がかかるだろう。 - 工場から店へ運ぶときにはどんな経費がかかるだろう。 - 店で販売するときにはどんな経費がかかるだろう。 - 経費だけでもわかるだろうか。 - 価格の内訳はどうなっているだろう。 - ワークシートにまとめよう。	T: 課題提示 T: 発問する P: 答える T: 資料提示 T: 説明する T: 発問する P: 答える	価格の内訳 ① 生産費 ② 輸送費 ③ 販売費 ④ 利益 ⑤ 原価	- 原材料費、工場、機械などの設備費、電気代などの光熱費、賃金、など。 - トラックやその燃料、倉庫などの設備費賃金、など。 - 店などの設備費、電気代などの光熱費、賃金、広告などの宣伝費、など。 - もうけが必要。 * もうけのことを利益という。経費を合わせたものを原価という。 - 価格は原価と利益を合わせたものである。価格は様々な経費による原価と利益を合わせたものであることが分かる。(ワークシート)
展開 (課題設定)	- 商品の価格を当てよう() ① 土鍋(原価 120 円?) ② スポンジ(原価 20 円?) ③ 時計(原価 100 円?) ④ ネクタイ(原価 70 円?) - それぞれの商品の価格と原価を示す。 - 商品の価格や商品が作られて売られるまでのことで疑問に思ったことやもっと知りたいことを出し合おう。	T: 発問する T: 資料提示 P: 予想する T: 説明する T: 発問する P: 話し合う T: KJ 法で分類する	ワークシート 異なる 100 円ショップの商品	- 価格が、すべて 105 円になっている。 100 円ショップの品物だ。 - 原価が、価格よりも高い商品や低い商品がある。 - 同じ商品でも価格が違うのはなぜか。 - なぜ、損をするような商品売っているのか。 100 円ショップはどうしてこんなに安く売っているのか、など。 - 商品の価格について関心を持ち、価格設定について探究しようとしている。(発言)
終結	企業は何を目的にして、活動しているのだろう。(MQ) 100 円ショップの価格の秘密をさぐることによって、企業が何を目的にして活動しているのかを学んでいこう。	T: MQ 提示 T: 説明する		

【第2時間】

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応(獲得させたい知識)と評価()
導入	なぜ、100 円ショップでは 100 円という価格にしているのだろう。	T: 発問する P: 予想する T: 説明する		- 客にとって安いと思え、ためらわず買い物ができる値段だから。 - 不況で、安売りの店が多くなったから。 * 値段をつける手間を省くために 100 円均一にしたことから始まったというエピソードを話す。
展開	なぜ、100 円ショップでは、原価 120 円の商品を売っているのだろう。販売をする上でのねらいは何だろう。(SMQ) 4 年生までの学習で似たようなことはありませんでしたか。 - スーパーは安売りの期間が決まっているが、いつもその値段では、やはり損をするのではないか。 100 円ショップはもうかっているのだろうか。	T: SMQ 提示 T: 発問する P: 予想する T: 資料提示 T: 発問する P: 予想する	安売り広告	- スーパーでは、安売り商品でお客さん呼び込んで他の商品も買わせる方法をとっていた。同じようにお客を喜ばせ、たくさん買わせるためではないか、など。 - 損をしないようなくみがあるのではないか。
展開		T: 発問する P: 予想する T: 資料提示	売上げ推移 店舗数推移 ① 1997 年度 ② ~ 2003 年度	- 年々、もうかっている。 - 店の数も増えている。

展開	100円ショップは、どうして売上げや店舗数が伸びているのだろう。(SQ【 】) ○消費者は、100円ショップのどんなところに満足しているのでしょうか。【1】-2 ○どんな場所に店を作っているでしょう。 ○品ぞろえにはどんな工夫をしているでしょう。	T:SQ 提示 P:答える T:発問する P:答える T:資料提示 T:発問する P:答える T:発問する T:資料提示 P:答える	満足度調査 ○グラフ ○項目 インタビュー ワークシート	・安いので、多くの客が買いに行くから。 ・値段が安く、品質もよい。 ・立地がよく、行きやすい。 ・品ぞろえが豊富で、買い物が楽しい。 ・駅の近く、商店街、ワンストップモール、など。 ・品数(7万品目)を増やして、楽しみながら選べるようにしている。 ・新商品を開発(毎月7千品目)して、あきさせないようにしている。
	○ワークシートにまとめよう。 ○100円ショップは、売上げを伸ばすために、どのような集客力を高める工夫しているかをまとめよう。 ○利益をのばすための工夫は、他にはないだろうか。さらにひみつをさぐってこよう。	T:発問する P:答える		・100円という価格で、品質のよい物を売って、割安感を与えている。 ・買い物をしやすい場所に店を作っている。 ・新製品を作り、品ぞろえを豊富にして、飽きさせないようにしている。 企業は利益を上げるために、集客力を高める工夫(低価格、品揃え、立地など)をしていることが分かる。(ワークシート、発言)

【第3時間】

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応(獲得させたい知識)と評価()
導入	○最初に価格当てをした商品は同じ商品なのに、なぜ、価格が違っているのでしょうか。 ○㊸の商品は100円ショップの商品で、利益も含まれています。ということは、㊹の商品と比べて、何が安いということになりますか。	T:発問する P:予想する T:発問する P:答える	実価格の違う同じ商品 ○価格の比較	・原料が安いのではないか。 ・利益がないのではないか、など。 ・原価が安い、ということになる。
	なぜ、100円という低価格で売ることができるのだろう。生産の面から考えていこう。(SQ【 】A) ○どうすれば、生産にかかる経費を安くできるだろう。 ○製品は主にどこで生産されているだろう。 ○これらの国に共通していることは何だろう。 ○なぜ、原材料費を安くできるのだろう。【 】A-1 ・まとめて大量に買うと安くなるのはなぜですか。 ○なぜ、賃金を安くできるのだろう。【 】A-2 ○日本の賃金は高いが、どのようにして生産費を安くしているだろう。 ○ワークシートにまとめよう。 ○100円ショップは、原材料費や賃金を安くするために、どんな努力をしているかをまとめてみよう。	T:SQ A 提示 T:発問する T:資料提示 P:答える T:発問する T:資料提示 P:答える T:発問する P:答える T:説明する T:発問する P:答える T:発問する T:資料提示 P:答える T:発問する P:答える	価格の内訳 製品の原産国の割合 賃金の比較 ○日本～韓国 ○中国 ワークシート	・原料費、材料費、設備費、賃金を安くすれば、原価を下げられる。 ・中国、日本、韓国、台湾、など。(インド、ベトナム、タイ、パキスタン) ・日本の近くにあるアジアの国々である。 ・中国や韓国で作った服などの商品は、安いものが多い。 *中国、韓国、台湾に共通していることは、原材料が安く手に入り、賃金が安く、機械化が進んでいることを説明する。 ・安いところ(国)で買っている。 ・まとめて大量に買っている。 ・まとめて売れば、作業などの手間が省けるので、安くできる。 ・賃金の安い国で作っている。 ・機械で作っている。 ・賃金を下げている。 ・機械化を進めて人手を減らしている。
終結	○機械化すれば、設備費が多くなるのではないか。機械化の利点について、そのひみつをさぐってこよう。	T:発問する P:答える		・原材料を安くするために、原材料が安く手に入る国で買ったり、まとめて買ったりしている。 ・賃金を安くするために、賃金が低く、機械化が進んだ国で生産している。 ・国内でも、賃金を安くしたり、機械化を進めて人手を減らしたりしている。 100円ショップは、商品の価格を下げるために原材料費や賃金を安くするための努力をしていることがわかる。(ワークシート、発言)

【第4時間】

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（獲得させたい知識）と評価（ ）
導入	- 製品の約45%を中国で作っているのはなぜだろう。 - 機械化をすれば、賃金をけずることができるが、そのほかにも利点はないだろうか。	T：発問する P：答える	製品の原産国の割合	- 機械化が進んでいるから。 - 賃金が安いから。 - 原材料が安く手に入るから。 - 機械で作れば、同じ品質のものがたくさんできる。
展開	- なぜ、機械化をして大量生産するのだろう。【 】A-3 - 機械で作る場合と人の手で作る場合では、どちらが安くできるだろう。 - a：機械で1日100個作る場合、設備費はいくらかかるだろう。 - b：人の手で1日100個作る場合、賃金はいくらかかるだろう。 - 機械と人では、どちらの方が安く作ることができますか。 1日に1,000個作る場合と3,000個作る場合を比べてみよう。 1日に1,000個売れる商品を作っている工場では、1個あたりの生産費はいくらになるだろう。 1日に3,000個売れる商品を作っている工場では、1個あたりの生産費はいくらになるだろう。 - さらに、製品1個あたりの経費を下げるために、どのような工夫をしているだろう。 - ワークシートにまとめよう。	T：課題提示 T：発問する P：ワークシートで作業し、答える T：発問する P：答える		- 設備費は、10年間で3,000万円。 - 他にも電気代がかかる。 - 賃金は、10年間で12,000万円。 - 機械の方が安くできる。
展開	- なぜ、100円という低価格で売ることができるのか、生産の面から、どんな努力をしているかをまとめよう。 - 生産の面の努力だけで、100円という価格で販売できるだろう。輸送や販売の面からも考えていこう。	T：説明する	1000個の場合の計算 3000個の場合の計算 比較 ワークシート	1日1,000個生産する場合、1個あたりの生産費は110円。 1日3,000個生産する場合、1個あたりの生産費は60円。 - 大量生産すれば、格段に安い生産費で生産できる。 *工場がひまな時期に100円ショップ用の製品を生産し、設備費の部分を値切っている。
終結		T：発問する P：答える		- 原材料を安く買い、経費を低くしている。 - 機械化をして人手を減らしたり、賃金を安くしたりして、経費を低くしている。 - 大量生産をして、製品1個あたりの経費を低くしている。 100円ショップは、商品の価格を下げるために、大量生産をして商品1個にかかる経費を低くしていることが分かる。（ワークシート、発言）

【第5時間】

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（獲得させたい知識）と評価（ ）
導入	原価には、生産費の他にどんな経費がありますか。	T：発問する P：答える	価格の内訳	輸送費と販売費がある。
展開	なぜ、100円という低価格で売ることができるのだろう。輸送と販売の面から考えていこう。（SQ【 】B） - 海外で作った製品はどのようにして運ばれるのだろう。 - なぜ、コンテナを使って海外から輸送するのだろう。（海外から輸送すると、経費が高つくのではない）【 】B-2 - 一般的な会社の場合、商品1個の輸送費はいくらか。 100円ショップの場合、商品1個の輸送費はいくらか。	T：SQ B 提示 T：発問する P：答える T：発問する P：答える T：資料提示 P：予想後、資料をもとに計算しながら答える T：説明する	海上コンテナの紹介 海上コンテナ輸送の経費 まかべ商会の場合の経費 100円ショップの経費	- 大量の製品だから、船で運ぶだろう。 - 一般的な会社の場合、1個につき約4円。 100円ショップの場合、1個につき1円以下 - 大きいコンテナを使って大量に運べば、商品1個につき、1円以下で輸送することができる。 *かさばるものは輸送費が高つくので、できるだけ国内で生産していることを補足する。
展開	- 商品の流れを見てみよう。通常の商品の流れとちがうところは何か。 - 問屋は、どんな仕事をしているのだろう。	T：発問する T：資料提示 P：答える T：発問する P：答える T：説明する	物流の図	100円ショップの方は問屋を通っていない。 - 倉庫の代わりになっている。 - 工場から製品を買って、店に売って利益を得ている。 *問屋には、製品をまとめて買い取ってもらう工場側の利点と少量の仕入れにも対応してもらえる店側の利点があることを押さえる。

展開	- なぜ問屋をはぶいているのだろう。【 】B - 1 - 問屋の代わりになる倉庫は、どこにあって、どんな倉庫だと思いますか。 - 資料で確かめてみよう。 - ワークシートにまとめよう	T : 発問する P : 答える T : 発問する P : 予想する T : 資料提示	倉庫の場所を示す地図 港の位置 ワークシート	- 商品にかかる経費を少しでも省いて、価格を低くする努力をしている。 - 港のそばにあるだろう。 - 大きい倉庫に違いない。 - 東広島，神戸，相模原にある。 - 広さは全部で約 24 万㎡。(学校の敷地の 160 倍)
終結	100 円ショップは、外国からの輸送にかかわる経費を安くするために、どんな努力をしているかをまとめよう。 - 国内での輸送で、経費を低くするひみつはないか、さぐっていこう。	T : 発問する P : 答える		- 海外から大きなコンテナを使って大量に輸送し、商品 1 個にかかる輸送費を安くしている。 - 大きい倉庫を作って、問屋をはぶき、経費を低くしている。 100 円ショップは、商品の価格を下げるために、海上コンテナによる大量輸送によって経費を低くする努力をしていることが分かる。(ワークシート、発言)

【第 6 時間】

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応(獲得させたい知識)と評価()
導入	- 国内でものを輸送するとき、どんな手段があるでしょう。 - それらの輸送手段の利用状況を見てみよう。何がわかりますか。	T : 発問する P : 答える T : 発問する T : 資料提示 P : 答える	国内輸送の割合	- 車，船，列車，飛行機などがある。 - 車の利用が最も多く、増えている。 - 船と列車の利用が下がっている。
展開	100 円ショップの国内での輸送はどのようにしているのだろう。 - 船や列車を使わないで、車を使うのはなぜだろう。 - トラック輸送のしくみがどうなっているのか調べよう。 - なぜ、100 円ショップは自社で輸送せず他会社に任せているのだろう。【 】B - 2 - ワークシートにまとめよう。	T : 発問する P : 予想する T : 説明する T : 発問する P : 答える T : 発問する T : 資料提示 P : 答える T : 発問する P : 答える	物流センターのしくみ 発注 入荷 受注 分配 出荷 ワークシート	- 車の輸送ではないか。 - 大量の商品だから船ではないか。 * 1 つの輸送会社に任せ、車で輸送していることを説明する。 - 高速道路が整備されたから。 - 直接、店まで運ぶことができるから。 - 荷物の積みおろしがはぶけて、速く届けることができる。 - 配送センターに集められた荷物を配送コースごとに分けて、できるだけ少ない車で効率よく輸送している。 - 毎日、全国に荷物を送るしくみができあがっている。 - 他の会社に任せた方が設備費など経費がかからない。 - 輸送のしくみをもっている 1 つの会社に任せれば、むだがなく運べて、経費もはぶける。
終結	100 円ショップでは、輸送にかかわる経費を安くするために、どんな努力をしているかをまとめよう。 - 生産，輸送の面で見えてきたが、販売の面での経費を低くするひみつはないかさぐっていこう。	T : 発問する P : 答える		- 海外から大きなコンテナを使って大量に輸送し、商品 1 個にかかる輸送費を安くしている。 - 大きい倉庫を作って、問屋をはぶき、経費を抑えている。 1 つの輸送会社に国内輸送を任せ、少ない経費で輸送している。 100 円ショップは、商品の価格を下げるために、問屋を省いたり、国内輸送を輸送会社に任せたりしていることが分かる。(ワークシート、発言)

【第 7，8 時間】

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応(獲得させたい知識)と評価()
導入	100 円ショップの広告や TV コマーシャルを見たことがありますか。 - なぜ、100 円ショップは宣伝をしないのだろう。【 】B - 4	T : 発問する P : 答える T : 発問する P : 答える		- 見たことがない。 - 宣伝費を省いて、経費を抑えようとしている。
展開	100 円ショップで働いている人はどうなっているだろう。 - なぜ、100 円ショップでは人手を減らすことができるのだろう。	T : 発問する T : 資料提示 P : 答える T : 発問する P : 答える	正社員とパートのわりあい、正社員 1 人あたりの売上げ	- 正社員の割合が少なく、パートが多い。 - 正社員は、本社社員と店長だけ。店員はすべてパート。 - 同じ値段の商品なので値段をつける手間がかからず、会計・経理も単純だから、人手がはぶける。

展開	- なぜ、正社員を4%しか採用しないのだろう。【 】B-3 100円ショップは、販売の面で、どのような低価格にするための努力をしているかまとめよう。 100円ショップのひみつをまとめてみよう。	T: 発問する P: 答える T: 発問する P: 答える T: 発問する P: 答える	ワークシート	- アルバイトは、正社員の給料の半分以下なので、賃金が少なくてすむ。 - 正社員や従業員をできるだけ少なくして、賃金にかかる経費を低くしている。 - 広告や宣伝をせず、宣伝費をかけないようにしている。 100円ショップでは、商品の価格を下げるために、生産と販売の面で経費を低くする努力をし、集客力を高めて大量販売をしていることが分かる。
展開	なぜ、100円ショップでは、原価120円の商品を売っているのだろう。その販売をする上でのねらいは何だろう。(SMQ) 次の資料を見て、企業が商品を販売する上でねらいとしていることを説明してみよう。	T: SMQ提示 P: 答える T: 発問する T: 資料提示 P: 答える	ハンバーガーショップAの例	- 原価120円の商品を置くことで、集客力を高めようとしている。 - 利益の上がる商品もいっしょに売ることによって全体として利益を上げようとしている。 - ハンバーガーを65円にすることでお客を集め、その他の利益の上がる商品をいっしょに売ることによって、全体として利益を上げている。 企業は、低価格の商品を売ることによって集客力を高め、利益を上げていることが分かる。
終結	企業は何を目的にして、活動しているのだろう。(MQ) - 企業が利益を多くあげることによって、国民生活にどのような影響があるだろうか。 - 新たに生まれた課題や疑問をさらに調べ、解決していこう。	T: MQ提示 P: 答える T: 発問する P: 答える		- 少しでも無駄をはぶいて、利益を多く上げることが目的になっている。 - 少ない経費で品質のよい商品を作り、たくさん売ることが目的としている。 企業は、利益を上げることが目的に活動していることが分かる。(発言) - 商品の質が向上し、数も豊富になり、国民生活は豊かになる。 - 働く人の賃金が安くなる、多くのゴミが出て環境が壊される、など。 企業の生産活動によって、国民生活が豊かになるとともに、様々な課題が生まれていることが分かる。(ワークシート、発言)

意義

本授業では、問いと習得させたい知識を構造化した授業構成にすることにより、転移可能な概念的知識を習得させ、社会的事象の見方・考え方を育成することを企図した。

そこで、子どもたちの生活の中でもあらゆる商品が使われている「100円ショップ」を取り上げ、その価格の秘密に迫る授業を設定した。

本授業は、「100円ショップ」を例にして学習することにより、あらゆる企業が、利益を多く上げることが目的として、商品の開発や経費の削減をするための工夫や努力をしていることを理解させることができ、他に転移できる概念的知識を習得させることに有効であった。

また、転移可能な概念的知識を習得させ、社会的事象の見方・考え方を育成するための資料活用のポイントを、次の4点にまとめ、取り組んだ。

多様な問いを引き出し、子どもに知的好奇心や追究意欲を喚起させるような活用
 多様な解釈を引き出し、批判的に吟味して、思考を深めていくような活用
 構造化された問いに即して、つかませたい概念的知識を習得させていくような活用
 習得した概念的知識を使って他の事例を説明させるような活用

以上のような、問いと習得させたい知識を構造化し、基礎的資料を効果的に活用した授業は、社会的事象の見方・考え方を育成することに有効であった。

【参考文献】

- 森分孝治(1978):『社会科授業構成の理論と方法』明治図書
- 森分孝治(1997):『社会科における思考力育成の基本原則』『社会科研究』全国社会科教育学会
- 岩田一彦(1991):『地域学習・産業学習における資料の利用』『現代社会科教育実践講座 16巻』社会科教育実践講座刊行会
- 村井吉敬 他(2004):『徹底解剖 100円ショップ』アジア太平洋資料センター
- 三浦あかね(1999):『100円ショップの魔術商法』エール出版社
- 『日経ビジネス』2002/5/6 「ニッポンの現場力 2大創産業」 日経BP社
- 『週刊ダイヤモンド』2002/4/27・5/4 「顧客満足度ランキング」 ダイヤモンド社